

竹取新聞

今までやつてきたことを遠隔でやろうとするから今まで

気づいたことがあります。

問を超える質が出せないことに悩みました。しかしこれを乗り超えると今度は、訪接園へ訪問し研修を行うこと

が当たり前でした。しかしができなくなつたことによつて、遠隔で研修を行うことの壁にぶつかりました。それを乗り超えると今度は、訪接園へ訪問し研修を行うこと

が当たり前でした。しかしができなくなつたことによつて、遠隔で研修を行うこと

1月の社内での初心会議では、コロナ禍で過ごした昨年を振り返り、そしてこの一年をカグヤとしてどのように活動していくのかということを話し合いました。

振り返れば、コロナ前は直



コロナ前の訪問の様子です。



この地域の茅を使って循環。



トタン屋根は塗り直し再利用!



葺き替えの様子はこちらから!!



お申し込みはQRコード、またはお電話で。
2月22日(月)13:30~14:45 参加費無料

竹取新聞

今までやつてきたことを遠隔でやろうとするから今まで

気づいたことがあります。

問を超える質が出せないことに悩みました。しかしこれを乗り超えると今度は、訪接園へ訪問し研修を行うこと

が当たり前でした。しかしができなくなつたことによつて、遠隔で研修を行うこと

が当たり前でした。しかしができなくなつたことによつて、遠隔で研修を行うこと



一人ひとりの自立・自律が問われ、磨かれていきます。

場を作る挑戦

でを超えないのであつて、「遠隔だからこそ出来ること」に目を向ける必要があるのだということです。

研修も遠隔の場合、ワークショットをしてもらった後に保育に入つてもらい、また数日後に続きのワークショットを行うということが交通費を気にすることなく手軽にできます。訪問した日に「理解してもらう」のではなく、プロセス（環境）の中で「気付ける場づくり」に挑戦をし始めた昨年は、私たちにとつてやつてあげるから「見守る」への社業の磨き込みのステージを更に上げていくきっかけになつたことは間違いない事実でした。

福岡県飯塚市の「聴福庵」や「BA（場の道場）」に続き、今度は藁葺古民家を甦生することになりました。こちらは子どもたちにも繋いでいきたかった「暮らしフルネス」の実践をメインに、サテライトオフィスや地域の方々が繋がり合える場など、色々な活用を検討中です。

およそ築150年で、15年ほど空き家だった家が甦つていくのが楽しみはあるものの、いざ葺やクロスをはがすとシロアリ被害も想像以上。本当に甦るのかと、期待と不安に満ちていきました。

そんな中、先日理念研修の一環で茅葺き職人の方々の下、屋根修繕を行いました。まずは弊社代表より茅葺きの理由や里山の循環の話、それを支える「結」という共同労働の形態、組織についてな

でを超えないのであつて、「遠隔だからこそ出来ること」に目を向ける必要があるのだということです。

研修も遠隔の場合、ワークショットをしてもらった後に保育に入つてもらい、また数日後に続きのワークショットを行うということが交通費を気にすることなく手軽にできます。訪問した日に「理解してもらう」のではなく、プロセス（環境）の中で「気付ける場づくり」に挑戦をし始めた昨年は、私たちにとつてやつてあげるから「見守る」への社業の磨き込みのステージを更に上げていくきっかけになつたことは間違いない事実でした。

福岡県飯塚市の「聴福庵」や「BA（場の道場）」に続き、今度は藁葺古民家を蘇生することになりました。こちらは子どもたちにも繋いでいきたかった「暮らしフルネス」の実践をメインに、サテライトオフィスや地域の方々が繋がり合える場など、色々な活用を検討中です。

およそ築150年で、15年ほど空き家だった家が蘇つていくのが楽しみはあるものの、いざ葺やクロスをはがすとシロアリ被害も想像以上。本当に蘇るのかと、期待と不安に満ちていきました。

そんな中、先日理念研修の一環で茅葺き職人の方々の下、屋根修繕を行いました。まずは弊社代表より茅葺きの理由や里山の循環の話、それを支える「結」という共同労働の形態、組織についてな

竹取新聞

発行所
株式会社 カグヤ



第139版

理念と実践で 絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一主義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てばと始めました。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようよろしくお願いいたします。

結

無料オンライン説明会

カグヤクループログも毎日元気に配信中！

カグヤウェブサイト



www.caguya.co.jp

「聴福庵」の情報はFacebookで
f 神家総本家 聽福庵

子どもが子どもらしく発達する事を邪魔しない。

ミマモリング

software ver.3.0

今後、定期的に開催していく予定ですのでご活用ください！



CAGUYA COMPANY NEWS

カグヤニュース

カグヤでは、それぞれが別々の場所にいても、お互いの気持ちや様子をクルーアン士はもちろん、皆様とも共有できるよう、毎日、ホームページでブログ配信しています。ここではその一部を抜粋して、日々の実践をご紹介いたします。

福岡での理念研修の計画を立てていた矢先、関東地方に緊急事態宣言が出されました。そのためクルー全員で話し合う機会を設けたのですが、「行く」「行かない」というお互いの価値観の違いの中で、「こんな時に動かなければ誰が会社を守るのか」「こんな時だからこそ感染者を増やさないようにするべきでは」「会社としてはどうするつもりなのか？」など、様々な意見が出ました。

もちろんそれに境遇や環境、



完成したかき餅♪ 地域ぐるみの行事が、繋がりを育み、協力し合える関係性を築いてきました。

行事からの学び

福岡の聴福庵とBAで鏡開きを行いました。この鏡餅は、先月号の竹取新聞でもお伝えした「古民家と暮らしの甦生勉強会」の参加者だけではなく、地域の方も一緒になって杵と臼でついたものです。

そしてその年神様の「御靈（みたま）」が宿った鏡餅を、古来からのしきたりに則り木槌で開き、手で小さくして油で揚げてかき餅にし、お客様や東京のクルーに配つて「福」を分け合いました。

よくイベントとして催されるこうした伝統行事には、単にその日だけ

持っていますが、平時ではない「行かないからできること」を考え行動し合うことが大切で、それにより理念研修がさらに深く豊かになりました。

答えよりも場づくり



研修の様子はズームで共有！ 全員で見守りました。



カグヤのホームページにて理念研修のメインである藁葺き屋根修繕の様子をレポートしています。



陽の光を浴びて健やかな日々を。

この催し物ということではなく、本来このような一連の流れがあり、その一つひとつに意味や道理があります。それは人々の暮らしを豊かにし、人との繋がりをより深めてくれる古の知恵でもあります。

これからも伝統行事を実践しながら、その意味や奥深さを皆さんにお伝えしていけたらと思います。

編集後記

暦の上では春を迎え、気温も少しずつ暖かくなってくる頃ですね。青空の色も陽射しも、あたたかさを増し、意欲という自然の恵みが降り注いでいるように見えます。春というのは冬の間に蓄えたアイディアや取り組みたいと願った事が芽吹き始める季節でもあるのですね。立春の日の青空を見ながらこの編集後記を書いています。

また、日本の家庭では時々家族の「呼び方」が変わります。子どもが大きると、夫婦間でも「お父さん（パパ）、お母さん（ママ）」などと呼び

る努力をするか」ということでもあります。新しい関係をつくったり、関係を修繕するときには、この「思いやりの呼びかけ」にもヒントがありそうです。

カグヤでは、それぞれが別々の場所にいても、お互いの気持ちや様子をクルーアン士はもちろん、皆様とも共有できるよう、毎日、ホームページでブログ配信しています。ここではその一部を抜粋して、日々の実践をご紹介いたします。

現地へ行くかどうかを決めるための話し合いではなく、一人ひとりができるところを考えられる場が持てたこと、そしてそんな場をみんなで磨き続けることが大切なだと気付きました。

福岡での理念研修の計画を立てていた矢先、関東地方に緊急事態宣言が出されました。そのためクルー全員で話し合う機会を設けたのですが、「行く」「行かない」というお互いの価値観の違いの中で、「こんな時に動かなければ誰が会社を守るのか」「こんな時だからこそ感染者を増やさないようにするべきでは」「会社としてはどうするつもりなのか？」など、様々な意見が出ました。

留学生に「日本語」を教えている人の話です。ようやく自然な日本語が話せるようになつてきたを感じたのは、教師である自分が、学生に「あなた（YOU）」と呼ばれなくなつたときだというのです。

日本語では、生徒が先生に向かって「あなた」とは言いません。子どももが親に向かつて「あなた」と言うこともありません。代わりに「先生」や「お父さん（パパ）、お母さん（ママ）」などと言います。「あなた」という表現を使うと、自分と相手が対立関係になってしまいますので、日本人は相手に対しては、親族なら「おじちゃん」「お父さん」「お兄ちゃん」「お父さん（パパ）」あるいは「叔父さん」という『親族用語』を使います。近所の人にも疑似的に「おじさん」とか「おばちゃん」と言ったり、学校や職場でも「役職」や「名前」で呼んで、その原則を適用しています。

コロナ禍で人間関係が変わり始めたとも言われます。また間もなく卒園、入園の季節を迎えます。職場では新人職員が入つたり、あるいは異動があるかもしれません。その都度新しい人間関係ができるますが、「どのように支え合う関係をつくるか」ということが大きな課題です。それは「お互いにどのような関係をつくる努力をするか」ということでもあります。新しい関係をつくったり、関係を修繕するときには、この「思いやりの呼びかけ」にもヒントがあります。

思いやりの呼びかけ

日本の智と慧

合うようになりますし、自分の親を「おじいちゃん、おばあちゃん」と呼ぶようになります。また二人目が生まれると、上の子は「お兄ちゃん、お姉ちゃん」と呼ばれるようになつたりします。

